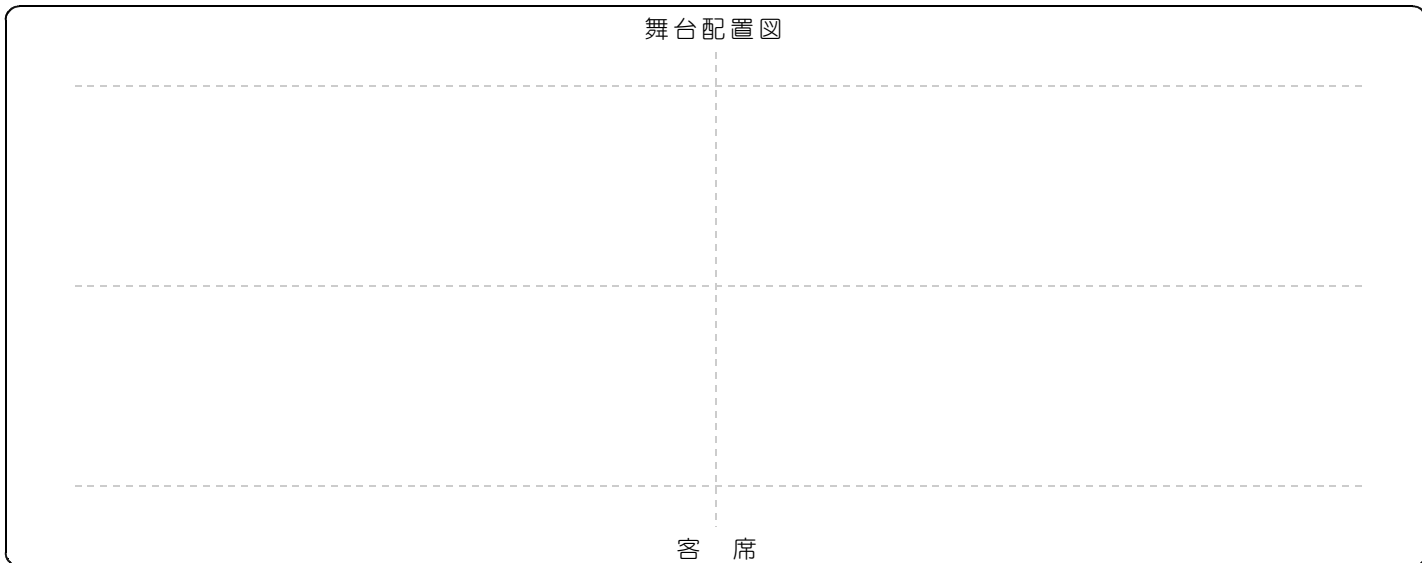


No.	銀 河	演奏者数	演奏時間
-----	-----	------	------



表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ エコー	□ 毛氈	W 屏風
立 奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座 奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44										編成：箏			三絃		
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾			
箏					E°					E°				一は四の乙		
	C	G°	A°	C°	D#	F°	G	A°	C°	D#	F°	G	A°			

三絃	C	F	C	本調子
----	---	---	---	-----

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1984年 委嘱者 高田香里 構成 箏・三絃 時間 9分18秒 出版楽譜 無し

解説 箏は日本のハーブなどによく言われるが、私はこの表現を好まない。しかし、楽器の構造上、音色的には非常に近いことは事実である。それにも拘わらず、そこから求める音楽の方向がまるで違うのは、その楽器を育てた人々の生活の違いであって、例えばそれは洋舞における空を翔けるような表現と、日舞の大地に根をはったような舞いかたの違いとも共通するものであろう。そんなことを考えながらも、しかしこの曲では箏にハーブ的な表現を意識的に与え、三絃には対照的に土俗的な性格を持たせてみた。二つの非常に違った世界の組み合わせである。1984年8月作曲。[作曲者] 収録媒体 箏 沢井忠夫作品集3 (VZCG-580) 沢井忠夫 三絃の軌跡

(COCJ-31121/2) 沢井忠夫 super sound CD vol.2 (DA-2100)